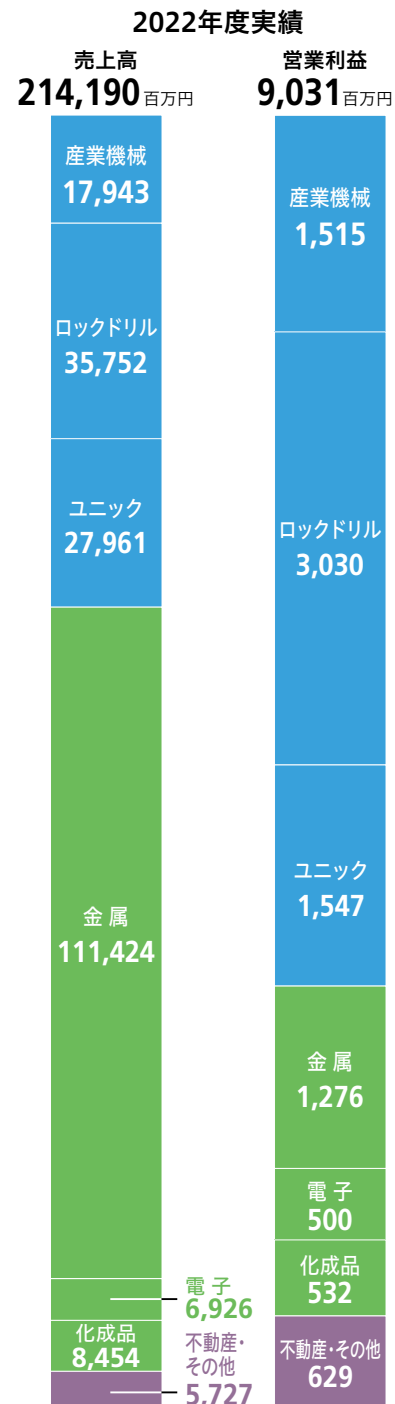


古河機械金属グループ各セグメント概要

古河機械金属グループは、激変する市場の中でグローバルな企業間競争に勝ち抜くため、グループ経営体制を採用しています。機械事業(産業機械、ロックドリル、ユニック部門)と素材事業(金属、電子、化成品部門)を中核事業に据え、社会に必要とされる企業であり続けるために、企業価値の最大化に取り組んでいます。

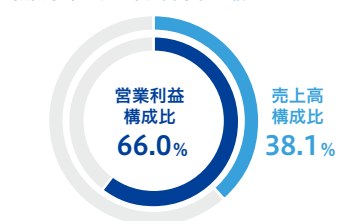


	セグメント	強み・特長
機械事業	産業機械部門	<ul style="list-style-type: none"> 製品の単体販売だけでなく、ポンプ、マテリアル機械等セクションプラントに対応 設計から施工まで一貫して受注するコントラクタ事業(橋梁、ベルトコンベヤ) 売上高の大半が国内
	ロックドリル部門	<ul style="list-style-type: none"> 国内では唯一のさく岩機総合メーカーとして高いシェアを維持 心臓部である油圧関連機器を内製(高精度な加工・熱処理) 売上高の約60%が海外
	ユニック部門	<ul style="list-style-type: none"> トラック搭載型クレーン、ユニックキャリアともに国内シェア50% シリンダ・バルブ等の基幹部品である油圧機器を独自設計し内製 売上高の約80%が国内
素材事業	金属部門	<ul style="list-style-type: none"> 委託製錬により電気銅を生産 電気銅の生産量は年間約4.6万トン
	電子部門	<ul style="list-style-type: none"> 高純度金属ヒ素は国内外で高いシェアを維持 放熱部材である窒化アルミセラミックスは需要拡大
	化成品部門	<ul style="list-style-type: none"> 各工業に不可欠の基礎材料となる硫酸、硫酸派生製品を提供 船底塗料や銅めっき用の銅酸化物を提供
不動産等	不動産事業・その他	<ul style="list-style-type: none"> オフィス、商業施設、映画館を備えた室町古河三井ビルディング(商業施設名: COREDO 室町2)を所有

各セグメントの強みや特長、主要製品、主な使用先、製品シェアは下記のとおりですが、特に、コア事業と位置づける機械事業では、防災・減災などの社会課題の解決に貢献するインフラ整備において「コンクリート」、「トンネル工事」、「土木・建築現場」を重点分野に、製品・技術・サービスを提供しています。2022年度は機械事業で売上高の38.1%、営業利益の66.0%を占めています。

主要製品	主な使用先	シェア(当社調べ)
ポンプ	工場等の排水設備、下水処理場、シールドトンネル工事現場等	・下水処理用汚泥ポンプ(国内):60% ・スラリーポンプ(国内):40%
マテリアル機械	砕石場、石灰鉱山、製鉄所、製錬所、セメント工場等	・破碎機(国内):15%
コントラクタ事業	鋼橋梁の新設工事、土砂搬送工事、防災・減災関連工事等	
油圧ブレーカ	砕石場等の露天掘り現場、土木・建築現場、解体現場等	・国内:40%
油圧クローラドリル	砕石場、石灰鉱山等の露天掘り現場、海外のインフラ整備等	・国内:65%
トンネルドリルジャンボ	山岳トンネル工事現場、ダム等の導水路工事現場等	・国内:80%
ユニッククレーン	土木・建築現場、資材運搬、レンタル会社等	・国内:50%
ミニ・クローラクレーン	狭小地や不整地、屋内作業現場、レンタル会社等	・国内:40%
ユニックキャリア	自動車販売会社、運搬会社、道路敷設会社等	・国内:50%
電気銅	電線、伸銅品、家電製品、通信機器、自動車等	
高純度金属ヒ素	PC、スマートフォン、赤外線発光部品、赤色LD・LED等	・国内:90% ・海外:60%
窒化アルミセラミックス	半導体製造装置用部品、高出力LD・LED、樹脂製放熱シート等	
硫酸、硫酸派生製品	化学・電子部材・鉄鋼・食品加工等の各工業、上下水道等	
亜酸化銅、酸化銅	船底塗料、プリント基板等	・亜酸化銅(国内):45%
室町古河三井ビルディング		

機械事業の売上高・営業利益構成比*



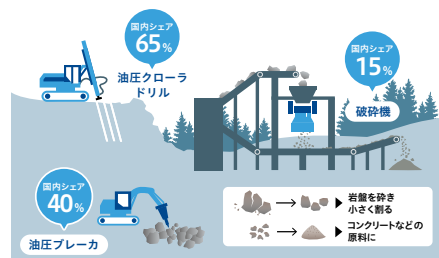
*営業利益の構成比は、合計からその他、調整額を除いた額に対する比率

FOCUS

機械事業で注力する重点分野

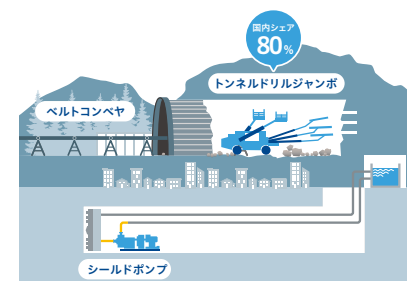
●コンクリート

コンクリート原材料である砕石や石灰石を採掘するために、岩盤を発破して崩すための火薬装填用の孔を開ける油圧クローラドリルや、大きな岩石を小割する油圧ブレーカ、プラントで大きさを揃えるために使用される破碎機、スクリーン等を供給。各地のコンクリート需要に貢献。



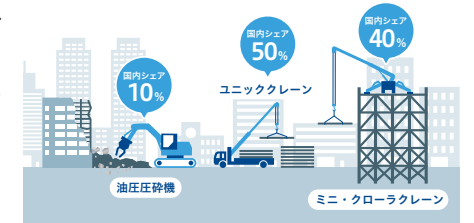
●トンネル工事

山岳トンネル工事において岩盤発破に必要な火薬装填用の孔を開けるトンネルドリルジャンボや大量の土砂を搬送するベルトコンベヤ、地下トンネル工事で掘削した土砂を水で圧送するシールドポンプ等を開発・製造。鉱山開発で培った掘削技術や搬送技術が活躍。



●土木・建築現場

建築資材等の運搬と積み降ろし作業が1台でできるユニッククレーンや、トラックの入り込めない場所にも自走し作業可能なミニ・クローラクレーンのほか、解体現場では油圧圧砕機が活躍。優れた機能性・操作性・安全性を備え、環境にも配慮した建設機械を供給。



古河機械金属グループの価値創造プロセス

古河機械金属グループは、創業以来147年に及ぶ長い歴史の中で、創業当時の鉱山業から様々な事業転換・多角化等の変革が図られ、幾度もの苦難の時代を乗り越えて、古河グループの源流企業として今日に歴史をつないでいます。創業者である古河市兵衛の哲学を心に刻み、鉱山開発に始まり社会基盤を支えてきた技術等を、CSV^{※3}の視点を織り込んだ「マーケティング経営」の実践により、顧客ニーズと社会課題に適合し信頼され魅力ある製品・サービスに革新し続けてきました。「カテゴリートップ・オンリーワン」企業として、社会課題の解決に役立つインフラ整備、製品・技術・サービス等を提供することで「企業価値」を創造すると同時に、「社会インフラ整備」、「安全で環境に優しい豊かな社会の実現」という「社会価値」の創造に寄与し続けていきます。

この意を含めた経営理念を具現化するために、現在、創業150周年を迎える2025年度に向けた「2025年ビジョン」、それを3つのフェーズに分けて「中期経営計画」を策定し、達成に向け邁進しています。長年培われた技術と新たな戦略を融合し、機械と素材を中心とした事業活動に、「ROE」、「ROA」、「事業ポートフォリオマネジメント」、「CSR」^{※1}、「ESG」^{※2}、「全社リスクマネジメント」^{※4}の要素を加味しながら、SDGs(持続可能な開発目標)をはじめ、わが国における国土強靱化、生産年齢人口の減少、脱炭素社会の進展、気候変動による災害に対する防災・減災など、様々な社会課題を解決し持続可能な社会の実現に貢献し続けていきます。これが経営理念を具現化するための当社グループの価値創造プロセスです。

